# 自然災害の恐ろしさ

須賀川市立第一中学校　二年　安田　夕紗

日本は山や川がたくさんあって、自然がとてもきれいな国です。でも、だからこそ台風や大雨のときに「土砂災害」が起きやすいという大きな怖さもあります。テレビで山が崩れたり、家が流されたりする映像を見ると、とても怖い気持ちになります。自然は美しいだけじゃなくて、恐ろしい一面もあるんだと感じます。

土砂災害にはいろいろな種類があります。山のがけが急にくずれる「がけ崩れ」、山の土がゆっくり崩れていく「地すべり」、川にたまった石や土が一気に流れてくる「土砂流」などです。どれもとても危なくて、一瞬で家や命を奪ってしまうこともあるのです。

最近は地球温暖化の影響で、大雨が降りやすくなって、「線状降水帯」と呼ばれる短時間にたくさん雨が降る仕組みも増えています。大雨の量が急に増えることで、土砂災害が起

きやすくなるということは、本当に怖いことだと思います。だから、自分の町でも起きるかもしれないと想像すると、準備しておくことがすごく大切だなと感じます。

　では、私たちにできる「土砂災害を防ぐこと」は何でしょうか。私はまず「知ること」が大切だと思います。例えば、がけにひびが入っていたり、地面から水がしみ出したりするのは、危ないサインかもしれません。そういう前触れを知っていれば、早く準備して避難できるはずです。学校での防災の授業や、地域での訓練は、「命を守る第一歩」だと思います。

　そして次に「準備すること」も大切です。市や町が作っている「ハザードマップ」を見れば、自分の家や学校がどこが危ない地域かがわかります。避難する場所や道を家族で確認して、実際に歩いてみると安心です。いざというときに慌てないように、普段から準備しておきたいです。

　それから「地域のみんなと協力すること」もとても大切です。災害は一人ではのりこえられません。小さい子やお年寄りの方は避難が大変だから、周りの人の助けが必要です。日頃からあいさつをしたり、防災訓練に参加したりして、地域の人と仲良くしておけば、いざというときにみんなで助け合えます。

　もちろん、国や町もいろいろな工事で対策をしてくれています。山にコンクリートの壁を作ったり、土砂をせきとめる砂防ダムをつくったりして、災害を防ぐ工事をしてくれています。それでも、すべての場所に工事が終わっているわけではないので、私たち一人ひとりが気をつけることも忘れないでいたいです。

　私はテレビで最近の土砂災害のニュースも見ました。二〇二五年八月八日、九州地方で激しい大雨が降って、大規模な洪水や地すべりが起こりました。鹿児島県の姶良市では家が土砂にうもれてしまったけど、そこにいた

人が助けられて病院へ運ばれたそうです。鹿児島県とその近くの宮崎県では、三十六万人以上の人が避難するよう呼びかけられました。ショッピングモールでは膝くらいまで水があふれていた地域もあると聞きます。電車やバスが止まり、飛行機もたくさん欠航になって、とても大変だったとニュースで見ました。また、総理大臣が「皆さんの命を守るために全力で助けます」と話しているのを見て、国も頑張ってくれているけど、私たち自身も準備しておかないといけないなと思いました。

　それに加えて、私は自分自身でも大きな災害を経験したことがあります。小学二年生のとき、台風十九号で大きな被害を受けました。家の近くに雨水貯留池があり、それを越える大雨で、とても怖かったのを覚えています。そのときは家で暮らせなくなってしまい、しばらく祖父母の家で生活しました。不安な気持ちになったりしたけど、家族が一緒にいてくれたので安心できたし、「命が助かったこ

とが一番大事なんだ」と強く思いました。この体験があったからこそ防災についてもっと考えるようになったのだと思います。

自然の力は本当に大きくて、完全に防ぐことはできません。でも、知識を持つことや準備すること、地域の人と協力することで、被害を少なくすることはできます。土砂災害で一番大切なのは、「命を守ること」だと思います。避難の指示が出たら「まだ大丈夫」と思わずに、すぐに動く勇気が必要です。

私はこれからも、学校や地域での防災の学びをしっかり受けて、自分の命や家族の命を守れるようになりたいです。そして、大人になったら地域の防災活動にも参加して、困っている人を助けられる人になりたいです。

自然は怖いけれど、水や食べ物、きれいな景色をくれる大切な存在でもあります。だから、自然と上手につきあっていきたいです。土砂災害を防ぐために、これからも防災のことを忘れずに生活していきたいと思います。